

## 先進事例紹介「リタイア男性が見た男女共同参画」

先進事例報告者 福間 正久さん(言行ふいっち族/元島根県男女共同参画審議会委員)

みなさんこんにちは。私は出雲からバスに揺られて参りました。

今日は、「リタイア男性が見た男女共同参画」ということですので、こういった男女共同参画という名称のついた会に出ますと、男性の参加者はごく僅かというのが通常です。これは男女共同参画に関わらず、地域のイベント等でも、男性は出たがらない、と言いますか、なかなか出てこない。私は社会福祉協議会とか、お年寄りの会ですとか、そういうお世話もさせていただいているのですが、参加者のほとんどが女性の方ですね。

### 1. 男女共同参画との出会い

まずこれは、帝釈峡の写真です(スライド番号1「男目線の男女共同参画」)。広島でお話しするから広島風景がいいかなあと思ひまして。

私が最初に男女共同参画とかかわりを持ったのは、「あすてらす情報 Market」という島根県男女共同参画センター「あすてらす」が発行している機関紙です(スライド番号2「あすてらす情報 Market」)。ビデオやDVD、図書、行政資料などを広くPRすることを目的として、現在5人ほどの編集委員がボランティアで作成しております。これを今から約11年前から現在まで続けております。

ところが、あすてらすも経費的にかなり苦しいようでして、もう発行を止めようかということが一時ありました。しかし、これは止めるわけにいかないだろうというこ

とで、発行の回数を1回増やして年5回にして、その代わりページを少し減らすことにして、幸いにもこれからも継続していくことになりました。あすてらすのホームページに過去のバックナンバーがすべて掲載してありますので、御覧になってみてください。

この編集委員になったきっかけは、あすてらすの男性向け講座のチラシが、たまたま私のところに郵送されてきたことです。

普段自分が接したことのない話を聞くのは非常に新鮮な感じがしたので、これは面白そうだなと思い、参加しました。その中で、広報誌作りの講座がありました。その後、あすてらすがこの講座の卒業生を対象に編集委員の募集をしていたので、応募しました。これが最初のきっかけとなったわけですね。

### 2. 家庭内での居場所づくり

次の「男の自立は“食”から」ですが(スライド番号3「男の自立は“食”から」)、これは、あすてらすの職員さんにうまいこと仕掛けられました。従来の男女共同参画の視点をちょっと変えたほうがいいんじゃないか、いわゆる女性の目線での男女共同参画というのが当たり前になりかけているので、もうちょっと男性の視点を加えよう、というわけで、県内の男性を5人ほどピックアップして「言行ふいっち族」を作りました。この名前は我々男性5人でつけた名前なんですけど、若干照れ隠しもあるんですよね。大きなことを言って、笑われるのがオチであろうと。言うことは言うけども、

なかなか実行はできない面があるだろうということで、言行ふいっちな族というのがここでできたわけです。

そして、「オトコ 5 人，料理との出会い」というテーマで、5 人で話をしてみました。石橋というのは、県の職員さんなんですけど、早い話が、「妻より私のほうが味付けは上手だよ、でもそのことは言えない」ということを言っております。なぜかという、大学時代に自炊をして、アルバイトで調理の仕事をしてきたからだ、ということです。

それから、光田というのは松江の人ですが、奥さんは役場の職員で男女共同参画の関係に携わってらっしゃるそうです。ある日突然、奥さんから「私だけではなくてあなたも家事をしなさい」と宣告があったそうです。その背景には子どもが 4 人いるので、奥さん一人ではなかなか手が回らないという状況があったようですが。そういうわけで、現在も朝食と、子どもさんと奥さんの弁当を 4 つ作っておられるそうです。奥さんがやられるのは夕食作りだけで、洗い物は全部光田さんだそうです。この方が一番張り切って食をやっておられます。

日高さんは町議会議員さんです。この方は家事は奥さんに任せっきりで、たまに買い物に同行するくらいだそうです。議員さんという身分になると地元では名士ですから、スーパーに買い物に行くと、「いやあ御熱心ですこと」とか声をかけられるんですね。そうすると「いやいやめったに来ないんですが」と色々挨拶をするのが面倒くさいから、近所ではなく遠くのスーパーの方へ出かけている、といったことのようにです。

河部さんもあまり料理はされないようですが、買い物は、妻は食料品関係、私は日

用雑貨、と分担している、ということです。

私は、現役の頃は料理はほとんどしたことがありません。したことがあるといえば、インスタントラーメンを作るとか、カレーライスを作るとか、野菜炒め程度ですね。まさか私が料理をするようになるとは思ってもみませんでした。

私の料理の取っ掛かりは、味噌汁でした。というのも、年齢を重ねるごとに朝起きるのが非常に早くなります。もちろん妻より早いです。妻が起きてくる頃には、もう仏さんにご飯もお茶も供えて、洗濯も終わっています。部屋がぬくぬくと暖まった頃によく妻が起きてくるんです。こういう生活をしている中で、妻が「起きて何もすることがないでしょう。鍋にいりこを入れて一晩水につけておいてあげるから、なにか適当に具を入れて作ってみたら」と言うので、それぐらいならやってもいいなと思って味噌汁を作ったわけです。そうしたら妻が、そのことを、友達関係や隣近所に言いふらしたんですね。「とっても上手に作った」とか言ってね。結局そこまでいわれると引込みがつかなくなりまして、今ではほぼ 365 日、朝食作りは私がすることになっています。

妻は、「家事って色々あって大変なんだよ」と言っていたので、私もすっかりその気になっていました。ところが実際やってみると、そんなに大変じゃないんですよ。まず朝起きたら、洗濯機のスイッチを入れて、炊飯器のスイッチを入れて、お湯を沸かして、これも最近の IH は全部時間ですから、お湯だったら 8 分、ご飯だったら 15 分か 20 分です。その間の動きを連動させれ

ば、1 時間の間にほとんど済んでしまうんですね。そして、男性が厨房に入ると、人にもよるんでしょうが、きれいになります。まずキッチンシンク、カラン、ボール類、まな板、包丁。確実にきれいになります。

こういった会合で、私はよく「妻は多少手抜きをしても、亭主をしつける。これが非常に大事なことだ」と話します。もっと極端に言うと、「いい意味での悪妻になりなさい」ということです。後ほどお話をしますが、老老介護とか認知症の方が出たとか、そういう状態になると、三食上げ膳据え膳ではなかなか暮らすことはできないからです。

それから、子育てが終わって孫もできるような世代になると、女性は地域活動に出かける機会が多くなります。そうすると一番負担になるのが食事の用意です。これを上手にしつければ、ちゃんと亭主がやるようになるんです。

私の場合は、「最近どうも妻の帰りが遅いな」と思ったら、時間調整をして帰るんです。出来上がった頃に帰ってくる。これも考えてみれば、40年間、朝夕、弁当まで作ってもらったわけですから、そろそろ恩返しかな、と考えています。

これは、あすてらすで年1回あるフェスティバルで、先ほどの光田さんと私が色々お話した時の模様です(スライド番号4「男女共同参画の実践的な啓発活動“つぶやき日記”の発表」)。

光田さんは「男もつらいよ…嫁・姑のいたばさみ!」というお話をされました。光田さんは、料理や洗濯を普段やっておられるわけですが、どうしても光田さんのお母

さんが非常に抵抗を示されるんだそうです。当然と言えば当然です。私も、最初料理や洗濯をした時は、お袋の目が気になりました。お袋も気になっていたと思いますが、何も言いませんでした。通常でも嫁姑関係というのは難しいです。その中で一番苦労するのが中に入った亭主ですよ。どちらからも攻められるわけですから、逃げ場がない。そういったことをつぶやいておりました。

私は「定年男性、生かすも殺すも妻次第」という話をしました。つまり「褒め殺し」ですね。「あれをしなさい」「これをしなさい」と言うと、男はどうしても面子にこだわるんですよ、「お前に命令されたくない」と思って。ところが、子どものしつけと同じで、褒めてその気にさせれば木に登る、そういうことをお話をしました。

下に「はっしー」と書いてありますが、この記事を書いた人の名前です、これは「あすてらす情報 Market」に載りました。

### 3. 地域に打って出る(ボランティア活動)

これはあすてらすが、3年の継続事業で「男性のための生活自立支援セミナー」を実施した時に、私にリタイア生活の体験を話してほしいという依頼があって、当時退職して4年でしたけど、私流の暮らし方についてお話をしたときの様子です(スライド番号5「自分流ライフプラン応援セミナー『リタイア生活は未知との遭遇である』」)。

「退職後の生活は、現役時代の生活パターンをご破算にし、地域という横社会との密接なつながりを持つことが必要であると思います」と、これは先ほどお話ししたとお

り。「そのためには地域情報にアンテナを張り巡らせて、積極的に地域に打って出る姿勢が大切です。地域社会に貢献して、新しい仲間づくりなど、多様な顔を持つことが生きがいにつながります」というお話をさせていただきました。

私が一番アンテナを張っている地域情報は、出雲市から出る情報誌ですね。これは色んな講習会ですとか、イベントが載っております。

冒頭で紹介がありましたが、昨年、日本女性会議 2011 が松江で開かれました(スライド番号6「日本女性会議 2011 松江」)。今日の御出席の皆さん方の中にも参加された方がおられるんじゃないかと思います。この時なぜか私にシンポジウムに加わってくれという話がありました。ですが、開催地の松江は県庁所在地ですから、わざわざ出雲の私が出かけるまでもないだろうと、断っていました。けれどそのうち、あっちこっちから、真綿で首を絞めるように責められまして、その中にどうしても断りきれない人がおまして、しぶしぶ出たわけです。他の方はみんな大学の先生ばかりで、多少びびったのですが、

- ・男性の視点で語る男女共同参画
- ・老老介護の時代、男性も家事の素養を
- ・リタイア男性は宝の山
- ・家庭の育児はイクメンに 地域での育児はイクジイに

この4点についてお話ししました。

「男性の視点で語る男女共同参画」というのは、もうちょっと男性の視点を取り入れた施策が必要じゃないか、ということです。

「老老介護の時代、男性も家事の素養を」ですが、私は現実にそういった人を見ております。

その方は、おまわりさんでした。奥さんは専業主婦で、地域活動も非常に活発にしておられて、健康を絵に描いたような人でしたが、突然、がんでお亡くなりになりました。ところがおまわりさんは、家事のことはさっぱり分からないんですね。洗濯機を回したことがない、掃除機も使ったことがない、ご飯も炊いたことがない。私が見舞いに行ったら、爪先立っても歩けないほどで、一升瓶が部屋中ごろごろ転がっているような状況でした。

先ほど「悪妻になりなさい」と言いましたが、これは、いわゆる「良妻賢母」——最近こういう言葉は使わないかもしれませんが——が裏目に出たんですね。ですから、男性も家事の素養が必要だ、ということです。

それから、「リタイア男性は宝の山」。

我々は色んなグループを作っています。色々な出身の方がいらっしゃいます。ただ、グループを作ったときは、「あなたは何の仕事をやったの」とは絶対聞きません。しばらくたってから、「あなたは刑事さんだったの」「まさか学校の校長先生だったとは」と、だんだん分かってくるんですが、色々な職種の方がいらっしゃいます。そうすると、何かやろうと話をした時に、非常に役立つ意見が出てきます。それだけではなくて、それぞれ特技を持っています。私は社会福祉協議会の役もしておまして、各地域で、高齢者の方を集めた「サロン事業」というのをやっております。そうすると、例えば、バナナのたたき売りができる人が

いたり、どじょうすくい踊りの専門家がいたり、歌がうまい方がいたり、ハーモニカができるとか、そば作りだったら任せとけ、うどんなら私だよとか、いろんな人がいるわけです。そういう人に、このサロン事業で腕を振るってもらおうと、本人も非常に嬉しいし、参加した高齢者の方も大変喜んでくれるというわけです。「男女共同参画社会」と言っておりますけど、私は「高齢者参画社会」という視点も必要になってきていると思います。リタイア男性には非常に能力の高い人がいっぱいいるわけですから。

これは、言行ふいっち族が、これもあすてらすのフェスティバルでシンポジウムを開いたときの様子です(スライド番号7「男女共同参画?」)。

「男女共同参画? 今こそ語ろう男の本音」というテーマでしたが、たいしたことは喋っていないです。シンポジウムというと、一方的な話が多いんですよ。専門家が専門的な話をして、参加者は話を聞くだけ、というものが非常に多い。そこで、「参加者と意見交換をしよう」ということで、最初は椅子に座って行儀よく話していたんですけど、これではまずいだろうと、前に出て腰掛けて、コーディネーター役のNHKのアナウンサーはマイクを持って会場中を走り回って、意見を聞きながら帰ってくる、そしてそれをまた会場に返す、という形式にしました。当日は125名くらいの参加者だったのですが、あっという間に90分がたちました。

やり取りがあちこちでありましたし、ずいぶん前のことなので、私も何を喋ったか覚えていませんが、食事作りのこととか、

夫婦同室で寝ているか、別々かとか。いわゆる座談会的な感じで、男女共同参画について話し合いました。

今から4年くらい前でしょうか。「全国男女共同参画宣言都市サミット in いずも」というのが、出雲で開催されました(スライド番号8「あ〜 いいにおい これ何? おじいちゃんの台所」)。出雲市男女共同参画センターには家庭部会というのがありまして、三世代が交流できるような分科会をやるよということになりました。これは、団子を握っているところです。子どもさんが団子汁を作ったんですね。この日はお母さんお父さん、あるいはおじいちゃんおばあちゃんが来られて、会場がいっぱいになりました。

「三世代が心をつなげて作る料理から、家族の絆の大切さを再認識すると共に、おじいちゃんも積極的に厨房に入ることを目指しました」ということです。

この背景には「料理やろう会」をこの年に立ち上げたということがあります。現在は会員が30名おり、大変出席率が良くて調理室が満杯になるんですが、当時、このよちよち歩きの「料理やろう会」を、出雲市男女共同参画センターがこのイベントに引っ張り出したということです。よくぞ引っ張り出してくれたと思います。

「食」ということになると、非常に色々な結びつきができてくる。「食」は基本かなというふうに思います。

#### 4. 仲間づくり(縦社会から横社会への広がり求めて)

出雲市生涯学習講座、あるいは、あすて

らすの「男性のための生活自立支援セミナー」等の受講生は、ほとんどがリタイア組です（スライド番号9「リタイア男性は宝の山」）。平日にやりますから当然そうなります。セミナー終了後も、袖触れ合うも他生の縁ということで、グループを作ります。私が担当したセミナーは、ほとんどの場合、終了後ではなく、最初からグループを作っていただきます。私も、それから主催したくすのきプラザの職員さんもグループに入って、色々楽しく遊んでいるわけです。リタイア男性は非常に豊富な経験、特技があります。これがお互いの宝物となるだけでなく、現実に、地域活動に発揮していただいております。来月の早々にはサロン事業で、ハーモニカの上手い方がおまして、この方の演奏に語りを入れて、みんなで歌を歌う、という計画を立てております。

それから、イクメンという言葉は皆さん御存知だと思いますが、イクジイという言葉は最近できた言葉です（スライド番号10「イクメン？イクジイも頑張る！！」）。

今から2年位前ですかね、雲南市で「男性のための自立支援セミナー」を開きましたら、それこそ本当に高齢者ばかりが出席しました。それも、どちらかというとなげを無理やり連れてきたという状況でした。

このときの講師の方が、全国的に有名な方で、NPO法人ファザーリングジャパン代表の安藤哲也さん。この方の読み語りのセミナーが行われました。まず最初に、先生（安藤さん）が幼稚園児の前でお手本を示します。そして、参加者の皆さんも是非やってみてください、と、この後で実技をし

たわけです。そうしたら、それが実を結びまして、ちゃんとグループができたんです。今では「家庭の育児はイクメンに任せるよ、そして地域の大きな行事の育児はイクジイにお任せください」ということで、ブログにも活動が載っておりますが、保育園とか幼稚園とか、地域のイベントとかに参加して、紙芝居をやったり、読み語りをしたりと、非常に活躍しておられます。私も社会福祉協議会へおりますと、隣が小学校ですから、読み語りをしてもらえないだろうかとよくお話が来ますので、これは非常に需要の裾野が広いと感じております。

そういうわけで、お年寄りばかりが参加していたものですから、安藤さんが「これはイクメンじゃなくてイクジイだな」と仰って、「イクジイ」という言葉ができたわけです。この活動内容については、NPO法人ファザーリングジャパンのホームページに掲載されていますので、関心のある方は覗いてみられたらいかがでしょうか。

「研修・セミナーは横社会を広げるチャンス」（スライド番号11「研修・セミナーは横社会を広げるチャンス」）。これは、研修やセミナーの規模にもよります。割と小規模な場合のことですけれど、私が担当するセミナーは、最初からグループ化ということ念頭においておりますので、例えば隔週3日間の研修があれば、一回は必ず、お昼はみんなと一緒に、近くでランチを取ることにはしています。結成する時は、ほとんど男性対象のことが多いものですから、まあ一杯やろうかということで、飲みます。男性は一杯やると、不思議とまとまりますね。

いまから5年前、地域の女性の料理のボランティアグループが、市の補助金を使って、男性のための料理教室を開いておりました。ところが、補助金には年限がありまして、3年が過ぎたときに「私たち辞めますよ」と突然宣告をされました。そして、メンバーの有志が集まって、このまま終わってしまうのは寂しいね、ということで、当時5人ほどで「料理やろう会」を立ち上げました。そしてあっちこっち手を広げる中で、10人、20人と集まりまして、現在も続いているわけです。これが非常に活発に活動しておりまして、例えば、今度は秋になりますけど、350人くらいを集めて、出雲地域の伝統的な料理を一堂に披露する、というイベントがあるんですが、これに参画したり、出雲は「おろち祭り」というのがあります。これに豚汁ですとか、いろいろなものを出したりしています。ですから、自分の料理の勉強だけではなくて、地域活動に料理を通じて参画しているのです。

この前、出雲市の職員の方ともお話したのですが、出雲市内の男性グループのサミットをやったらどうだろうかと、現在検討中です。

これは、そば打ちですね（資料「料理やろう会&食プロジェクト」）。このそば打ち交流会というのは、去年、東日本大震災で、出雲市に30数名の方が避難してこられたのですが、4月頃、そういった方をお招きして、一緒にそばを打って、みんなで食べるという交流会を開きました。我々の仲間にとじょうすくいをやるものがありまして、とじょうすくいをやったり、三味や鼓を打

ったりしました。当日は、日経新聞以外の新聞はほとんど取材にきました。テレビカメラも来ました。

これが、さきほどの350人集めての料理のイベントですね。この他にも色々なイベントに参加しています。

この食プロジェクトというは、また後ほどお話ししますが、料理やろう会と、地域の料理のボランティアグループと一緒に作ったプロジェクトです。

出雲市男女共同参画センターくすのきプラザでも、男性が対象の色々なセミナーを開いております（資料「これからが面白い！男のセカンドライフ 自分の生き方探し」）。例えば、「これからが面白い！男のセカンドライフ 自分の生き方探し」ということで、これは、4日間のコースでしたが、私と、私の仲間と2人が話をしました。「もてる男のコミュニケーション」「男がつくる炊き立てご飯と味噌汁」「ご破算で願ひましては～すべては未知との遭遇から～」「おもしろセカンドライフ 自分流、一度っきりの人生」。こういった話をしております。

このチラシは私ではなく、出雲の男女共同参画センターの専門職員さんが作られたものです。

これは自分史作りです（資料「未来につなげる自分史づくり」）。

今、女性の平均寿命が86歳くらいですか。そして男性が79歳。ということになりますと、もう70歳にもなると、余命が9年と、カウントダウンできるんですよ。なので、今まで自分が生きてきた人生を振り返りな

がら、残された9年間、あるいは10年間をどう過ごしたらいいでしょうか、ということで、この自分史づくりをやりました。名前は大層なことです、まず最初にエクセルで、自分の思いつくままに年代を書いて、主な出来事をば一っ書いてもらいます。そして年代順に並べ替えて、もっと詳しい内容を付け加えたり、写真を入れたりして自分史を作るわけです。こういったことをやりながら、「残された人生をいい具合に過ごしましょう」というのがねらいです。

これらは全部、パソコン持参で参加していただいておりますので、あんまり人数が多いととても手が回らない。それに、私たちがやるのはパソコン教室ではありません。あくまでパソコンは手段です。ですからたまにどうしてもパソコンが動かないといった困ったことが起きたりもします。

これも似たようなもので、これは、あすてらすと、地元の出雲市の男女共同参画が協働して主催した「いきいきシニア自分流ライフプランセミナー」です（資料「いきいきシニア自分流ライフプランセミナー」）。

これはどちらかという、自分史づくりと似通ったところがありますが、これは「男の井戸端会議」です。井戸端会議というと女性限定という感じがしますが、男性が井戸端会議をやりますと、面白いです。とにかく、妻のことをけちょんけちょんに言うんです。でも、最後の方になると、「普段、いくら妻からけちょんけちょんに言われても、そりゃいなくなると困るよね」というのがオチなんです。まあ可愛げな男の井戸端会議です。妻へのラブレターを書くんですが、普通、ラブレターと言うと、最初か

らいいことばかり書くんですけど、男の井戸端会議で作ると、最初は辛らつな内容から始まって、最後は語るに落ちた、ということになるわけです。こういったことは、普段、やろうと思ってもなかなかできないんですが、研修を通してやると面白くなります。

ちょっと余談になるんですが、ここに書いてある、くすのき会、どげな会、おんぼらと会。これは研修からすべて誕生した会ですが、飲み会が非常に愉快です（資料「くすのき会&どげな会&おんぼらと会」）。

というのは、縦社会の飲み会というのは私も十分に経験しましたが、とにかく上役がまな板の上ののっかるわけですね。で、けちょんけちょんに上役をやっつけるわけです。ところが、リタイア組の飲み会は、まな板に上げる人がいないんですね。だから非常に爽やかな飲み会になります。それと、飲み会そのものも、年金生活ですから、そんなにお金をかけて飲むというわけにいきません。例えば、忘年会とか新年会とか花見とか色々やるわけですが、ほとんどが「一人一品ずつ持ってきてなさい」といったやり方でやるわけです。なので一回につき1人1500円出して剰余金が出るといった具合です。そうやって知恵も絞っております。

くすのき会というのは、くすのきプラザの研修会からできた最初のグループです。大体、出席者の中の2人が動く与会ができます。1人では無理ですね。2人が声をかけるとグループができます。これでくすのき会というのができました。

次にどげな会というのがありますが、「ど

げな」は出雲弁です。だいたい意味は分かるんじゃないかと思うんですが（「どげな」=出雲弁で「どのような」という意味）。この会はブログ作りと名刺作りのセミナーからできた会です。

なんでブログをやったかという、「せっかく仲間が集まったんだから情報のやり取りをする場を作ろう」ということからです。これは結構盛況でした。

そして名刺作り。リタイアすると、ほとんどの男性は名刺を持ちません。そして女性も持ってない方のほうがどちらかという人多いかもしれません。そういうわけで名刺作りをやったわけです。名刺の原版は大手の電気屋さんに行けば売っていますから、そこに印字するだけです。男性が作ると、画一的なパターンなんですね。従来、会社で使っていたような名刺作りの延長線上のようなものを作ります。ところが女性が作ると、非常にカラフルで、男性の常識から外れたような名刺になります。

そしてこれは、交流の手段として名刺を作ることが目的ですから、名刺の渡し方、受け取り方、応接間であったらどういった場所でどういうふうを受け取るかとか、実際に名刺交換を参加者全員でやったんです。そうすると、女性の方の名刺交換が長いこと長いこと。終わらないんですよ。自分の名刺を持った嬉しさと、もともと話し上手といったことが絡み合わされて、延々と続きます。

私も実際に自分で作った名刺を使っております。肩書きのない名刺です。ただ、裏には趣味をいっぱい書いたり、写真を貼ったりしています。今日お見せできないのが残念ですけど。

おんぼらと会というのも、研修会からできた会です（「おんぼらと」=出雲弁で「ゆったりと」「やわらかく」という意味）。

会を継続・維持するためには、やはりメンテナンスが必要です。このおんぼらと会は月に1回、お寺に行って、朝6時半から座禅をします。座禅が終わると、7時ごろから、住職さんと一緒に、おかゆと味噌汁と漬物で食事をしながら交流をして、それが終わったら、今度は24時間営業のジョイフルで「今度は何をやって遊ぼうか」とミーティングをするわけです。これが大事なんですね。そうすると色んな案が出てくる。そして、できるだけ金のかからなくて楽しむようなものを計画するわけです。これが毎月1日です。

くすのき会もやっぱり同じようなことを、毎月10日の朝7時から7時45分まで——というのは8時から連ドラを見ないといけないので——、ジョイフルでします。ジョイフルだと399円でミーティングができるわけですよ。コーヒーだけだったら350円ですか。

こんなふうに、朝のミーティングをやりながら、色んな遊びをしております。具体的にどんなことをして遊んでいるのか、ここへ来る前に整理をしてみました。

まず飲み会から言うと、新年会、花見、暑気払い、紅葉狩り、芋煮会、年にも似合わずクリスマス会——これは妻から失笑を買っております——、そして忘年会。あと、色んなグループと横断的に付き合っておりますので、たまには年甲斐もなく合コンをやったりします。これは非常ににぎやかです。2次会まで行ったりしてね。

それから、飲み会以外だと、最近各地でウォーキングが盛んにありますね、こういったウォーキングに参加するとか、暑気払いの前はボーリングでひと汗かくとかですね。それから NHK を訪問するのが広島でもあるんじゃないかと思えますね、そうするとその日の夕方には行った方の写真が紹介されるとか。それからハゼ釣り、竹炭焼き、飲んだ後のマージャン、宍道湖のナイトクルージング、社協のサロン事業への参加。料理関係で言うと、うどん、そば、各種料理、チーズ作り、燻製作り、藻塩作り、味噌作り。これは毎年やっております、大体 1 年分作ります。最近は発酵食品作りで有名な麴漬けの素作りをしました。こういった金のかからない方法で遊んでおります。

## 5. 趣味 (ひとり遊び)

家で何もしないで、テレビばかり見ていると、やれ濡れ落ち葉だの、粗大ごみだの、わしも族だのと言われますので、1 人で熱中できるもの、こういうものがやっぱりリタイア後には必要になります (資料「木彫」)。私の場合は木彫です。彫刻刀で彫るわけです。

木彫をやり始めたきっかけは、これも妻の作戦でした。退職後にウロウロされてはかなわんと、たまたま近所で木彫教室の 20 周年記念があったときに、私を連れて行きまして。見てみたら何か面白そうだなと思って、私もその道に入ることになりました。今はどっぷりとつかっております。

もう一つは、私はパソコンとの付き合いが非常に長いものですから、windows が出る前から好きでやっております、我々の

仲間のパソコンの駆け込み寺になっております。エッチな画面を見ていたらそれが消えなくなったから、なんとか処理してくれということで、OS を入れ替えたり、無線 LAN のセッティングをしたり。エッチな画面が消えなくなったとやってきた時には米 30 キロ持ってきましたよ。なんで米 30 キロかなと思ったら、普通の電気屋さんに行って直してもらおうと 12000 円くらいかかるらしいですね。それから逆算したのか分かりませんが、年に似合わず、パソコン関係やっていると駆け込み寺になると、ということですよ。

ということで、長時間ご清聴ありがとうございました。